

## 安全保障研究部会第7回勉強会 開催報告

平成27年9月5日

去る8月29日、市ヶ谷の日本大学会館第2別館において、当日本国際情報学会の安全保障研究部会第7回勉強会を開催しました。その概要を報告致します。

日時 平成27年8月29日（土）

於 市ヶ谷 日本大学会館第2別館3階大会議室

### 【研究発表】

10時－12時

宮田敦司

北朝鮮における犯罪形態の変容に関する一考察  
—犯罪の凶悪化が金正恩政権に与える影響—

13時30分－15時

吉岡直毅

日本国憲法のあり方と日米同盟の発展

15時－16時30分

泉谷清高

大災害におけるエネルギーシステム供給システムの信頼性  
—首都直下地震を中心に—

16時30分－17時

鈴木満由美

学校制度と教育費についての考察  
—フランスに学ぶ少子化脱却のための政策—

17時－17時55分

佐藤勝矢

防衛省内の文官統制廃止による文民統制への影響

### 【講評】

乾一字顧問

### 概要

今回は北朝鮮の研究で数々の研究実績のある宮田氏が、近年の北朝鮮における犯罪の形態、および破壊・暗殺罪をはじめとする刑法の厳罰化という変化に着目し、金正恩政権が事実上反体制勢力の萌芽を認め、体制の存続対策に乗り出していることを論じたのをはじめ

め、5氏がそれぞれの研究課題をテーマに発表を行った。

泉谷氏は、首都直下型地震が発生した場合に、安定したエネルギー供給を早期に回復させるための課題と対策を提示した。ほか前回に引き続き、鈴木氏が、わが国の少子高齢化対策として、低学歴の人ほど非正規労働者の割合および未婚率が高い統計結果を踏まえ、子どもを育てやすい環境づくりの観点から子育てや教育にかかる経済的側面に着目し、少子高齢化を克服したフランスの政策を参考に、負担を軽減する施策を模索した。

次回は11月28日(土)午前10時から、市ヶ谷の日本大学会館第2別館4階会議室で、第8回勉強会の開催を予定している。

